実践事例 3

春休みの課題と確認テストで学習習慣の乱れを防ぐ

佐賀県 嬉野市立塩田中学校

小学校卒業から中学校入学までの約3週間は、子どもにとって「学習の空白期間」になりがちだ。嬉野市立塩田中学校は、「春休みの学習課題」と入学後の「確認テスト」を実施することで、この空白期間の解消に取り組んでいる。

課　題

- 小学校卒業から中学校入学までの約3週間が、子どもが机に向かわない「学習の空白期間」になり、入学前に学習習慣が乱れていた
- 中1ギャップで、学習意欲を失ってしまう生徒がいた

実　践

- 小・中学校の教師が協働で作成した「春休みの学習課題」を活用。小学校卒業前にプレゼントとして贈り、春休み中の学習習慣の崩れを防止する
- 「春休みの学習課題」は入学後すぐに提出、自己採点をさせる。その後、学校独自の「確認テスト」を実施。中学生らしい「定期テストに向けた学習」のサイクルを疑似体験させる
- 「確認テスト」の結果と「春休みの学習課題」の内容を合わせて見取ることで、手立てが必要な生徒を早期に把握する

成　果

- 新入生全員が「春休みの学習課題」を提出。学習の空白期間がなくなった
- 小学校時代には宿題をあまり提出していなかった子どもでも「春休みの学習課題」はきちんと提出するなど、「中学校に入ったら頑張ろう」という意欲の喚起に成功した
- 塩田中学校独自の試みであった「確認テスト」を嬉野市全域で実施するために、教育委員会で議論がスタートした

School Data

◎1968（昭和43）年に開校。田園が広がる校区は、穏やかで落ち着きのある土地柄。部活動が盛んで、2010年の地区大会では13競技中8競技で優勝した。

校長◎宮﨑憲太郎先生

生徒数◎355人　学級数◎12学級（うち特別支援学級2）

所在地◎〒849-1411 佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲1801

TEL◎0954-66-2030

URL◎http://www3.saga-ed.jp/school/shiota-j/

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第3回

中学校導入期に学習習慣を定着させる

子どもを机に向かわせる「春休みの学習課題」

2010年春、塩田中学校に入学した新入生は、校区の四つの小学校から計122人。この全員が4月12日の提出日に、「中学校入学準備　春休みの学習課題」（図1）と題した冊子を担任に提出した。教務主任の宮﨑彰先生は、生徒が中学校生活のスタートを順調に切れた手ごたえを感じたという。

「小学校時代は宿題を忘れて提出できず、注意されていた子どもでも、中学校での最初の課題を提出できたのは大きなポイントです。四校とも指示が徹底していたのでしょう」

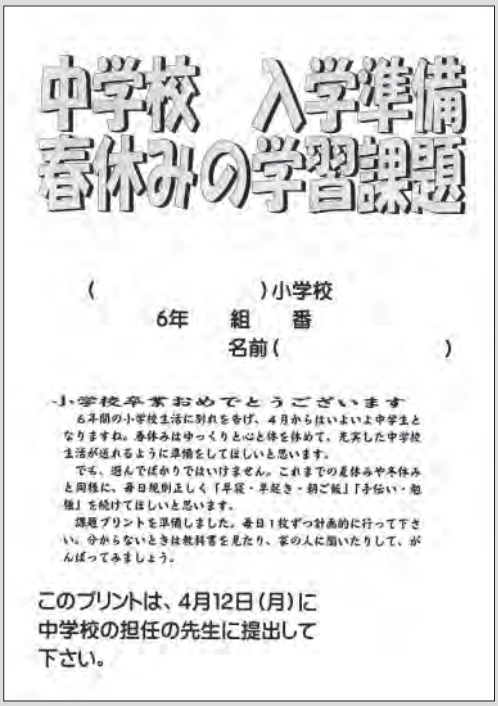
「春休みの学習課題」は、小学校の学習内容を総復習するための冊子だ。嬉野市の教師から成る「学力向上推進委員会」が作問を担当し、国語・算数・理科・社会の4教科の問題をA4判18ページ分にまとめた。分量は、小学校卒業から中学校入学までに1日1ページずつ取り組むことを想定して決められた。3月上旬に各小学校から児童に配布される。

「小学校を卒業する3月中旬から中学校に入学する4月10日前後までの約3週間、手を打たなければ、子どもが机に向かわない『学習の空白期間』が生じてしまいます。学校からの解放感もあり、生活習慣が不規則になりがちです。この空白期間を埋め、中学校の学習にスムーズに接続するのが、この冊子を活用する最大の目的です」（宮﨑先生）

ただし、中学進学を控えて不安や期待が入り混じっている時期に、難しい課題を出して意欲を削いでしまっては逆効果だ。春休みに勉強して学力を付けさせるというよりも、あくまでも毎日コツコツと机に向かう習慣を途切れさせないことがねらいだ。

そのため、問題の難易度と1日分の分量は、子どもが心理的に抵抗なく取り組めるものにしている。出題範囲は小学5、6年生での履

図1　「春休みの課題プリント」

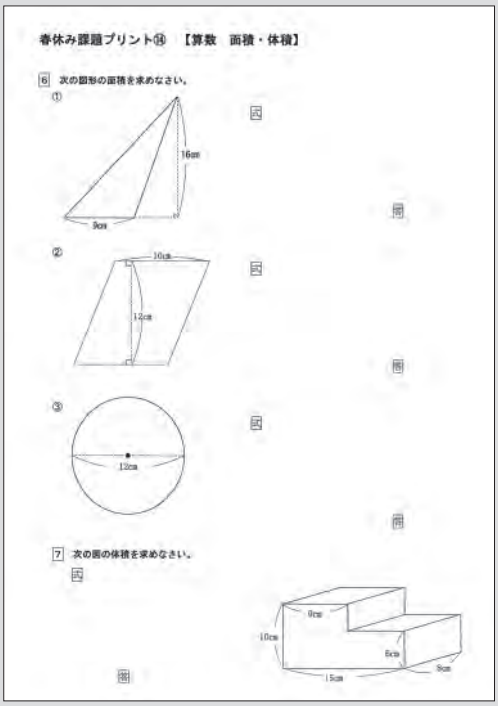

中学校　入学準備
春休みの学習課題

（　　）小学校
6年　　組　　番
名前（　　）

小学校卒業おめでとうございます
6年間の小学校生活に別れを告げ、4月からはいよいよ中学生となりますね。春休みはゆっくりと心と体を休めて、充実した中学校生活が送れるように準備をしてほしいと思います。
でも、遊んでばかりではいけません。これまでの夏休みや冬休みと同様に、毎日規則正しく「早寝・早起き・朝ご飯」「手伝い・勉強」を続けてほしいと思います。
課題プリントを準備しました。毎日1枚ずつ計画的に行って下さい。分からないときは教科書を見たり、家の人に聞いたりして、がんばってみましょう。

このプリントは、4月12日（月）に
中学校の担任の先生に提出して
下さい。

「春休みの学習課題」の表紙には、春休みの過ごし方の注意や、プリントに1日1ページ取り組むことが記されている



算数の「面積・体積」のプリント。課題の内訳は、国語7日分、算数5日分、理科3日分、社会3日分となっている

嬉野市立塩田中学校校長
宮﨑憲太郎 Miyazaki Kentaro
「生徒には、自分と自分の周囲に感謝しつつ、逃げず、諦めない凛々しい人間に成長してほしい」

嬉野市立塩田中学校
宮﨑　彰 Miyazaki Akira
教務主任。理科担当。「人の気持ちになって生活できる生徒になってほしい」

修内容が中心で、一部に小学3、4年生での履修内容も含まれる。小学校の履修内容のみで、中学校で学ぶ内容を先取りするようなものはない。活用力を問うような深く考えさせる問題もあえて入れず、小学校で習得した基礎・基本をしっかり復習させている。

学校独自の「確認テスト」を入学4日後に実施

回収された「春休みの学習課題」は担任が確認し、解答集と共に生徒に返却する。ここまでは市内のどの中学校でも行われていることだ。同校はそこに、10年度、新たなプロセスを加えた。提出日の4日後に、同校独自の「確認テスト」を実施したのだ（**図2**）。

「中学入学当初の数日間は、どうしても学級での取り扱い事項などが多く、授業のスタートが遅れがちになります。その間、学校で十分な勉強時間が取れない分を、テスト勉強を通して自宅で学習させようというのがねらいです」（宮崎先生）

「確認テスト」は、「春休みの学習課題」の中から出題される。設問数は4教科のバランスを見ながら配した33問で、解答時間は45分。担任は「春休みの学習課題」を返却する際に「この中から全く同じ問題を30題程度出すから勉強しておくように」と伝え、「春休みの学習課題」で間違えた箇所を十分復習してテストに臨むよう指示しておく。

採点は学年団全員で行い、1週間で終わらせる。既習の問題からの出題でもあるため、平均点は80点前後で、満点の生徒は2割程度だった。出題レベルをあえてそうしているねらいを、宮崎憲太郎校長は次のように語る。

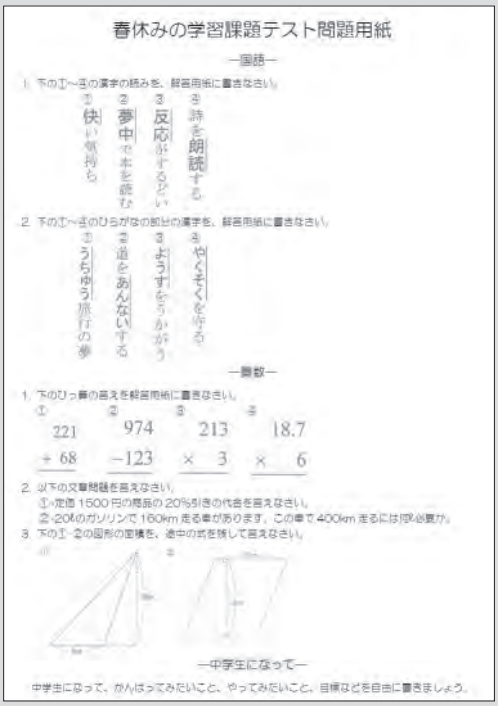
「中1ギャップで、いきなり学習意欲を失ってしまうのを防ぐためにも、新入生に『やれば出来る』という自信を付けてもらうのがこのテストのねらいです。小学校で宿題を提出できなかった生徒が、『春休みの学習課題』を頑張って提出したように、多くの生徒は中学校入学を機に、心機一転して頑張ろうと思っています。この段階では、そうした前向きな気持ちを持ち続けてもらうことが大切です」

「確認テスト」の事前学習を通して中間テストの学習サイクルを体験

「確認テスト」に向けて、自分に足りない部分を計画的に復習してテストを受ける。4日間という短期間ではあるが、これは中学校の定期テスト対策と同様のサイクルだ。2学期制を採用する同校では、最初の定期テストが6月中旬以降と遅い。4月に行う「確認テスト」で、生徒にこのサイクルを早い段階で疑似体験させようというわけだ。

「『何を勉強したらよいのか分からない』『どうやって勉強したらよいのか分からない』と、中学校での勉強に悩む生徒もいます。そうした生徒でも、小学校の学習内容を勉強した『春休みの学習課題』から全く同じ問題がテストで出るならば、何をどう勉強すればよいのか分かるでしょう。習った範囲をしっかり家庭学習で定着させることが、自分の実力アップにつながるというサイクルは、中学校で必要とされる学習習慣の基本となります。以降の中学校の学習リズムをうまくつくれると思います」（宮崎先生）

図2　「確認テスト」


春休みの学習課題テスト問題用紙

—国語—

1. 下の①～③の漢字の読みを、解答用紙に書きなさい。
① 快い気持ち　② 夢中で本を読む　③ 反応がするどい　③ 詩を朗読する

2. 下の①～③のひらがなの部分の漢字を、解答用紙に書きなさい。
① うちゅう旅行の夢　② 道をあんないする　③ ようすをうかがう　③ やくそくを守る

—算数—

1. 下のひっ算の答えを解答用紙に書きなさい。
① 221 + 68　② 974 − 123　③ 213 × 3　④ 18.7 × 6

2. 以下の文章問題を答えなさい。
①・定価1500円の商品の20%引きの代金を答えなさい。
②・20ℓのガソリンで160km走る車があります。この車で400km走るには何ℓ必要か。

3. 下の①・②の図形の面積を、途中の式を残して答えなさい。

—中学生になって—

中学生になって、がんばってみたいこと、やってみたいこと、目標などを自由に書きましょう。

「春休みの学習課題」の提出4日後に実施した「確認テスト」。4教科から2、3ずつ大問を出題した

「学力保障」のために、移行期間の今できること
第3回

中学校導入期に学習習慣を定着させる

学力下位層の実態を早めに把握できるメリットも

教師にとっても「確認テスト」はメリットがある。指導上、丁寧に見取る必要がある生徒を、入学後すぐに把握できるからだ。

これまでも小学校の指導要録があったが、3段階評価のため、生徒の学力を大まかにしか把握できなかった。しかし、指導要録に加えて「確認テスト」の答案を参考にすることによって、生徒の学力をより詳しく把握できるようになった。「確認テスト」はやさしい問題のため、学力上位・中間層は満点かそれに近い点数を取るが、小学校段階でつまずきを抱えている学力下位層の生徒は点数が低く、どこでつまずいているかも分かりやすい。授業中に注意してフォローしたり、チーム・ティーティングなどの際に注視すべき生徒を早期に把握できる。

「深く考えさせるような難しい問題を加えれば、もう少し学力を正確に把握できるかもしれません。しかし、問題が難しくなって点を取れなくなっては、かえってマイナスだと考えています。また、『春休みの学習課題』には、学習用の問題だけではなく、毎日の生活記録を書き込む欄もあります（図3）。テスト結果と併せて担任がチェックすることで、日々の学習習慣でも重点的に指導する必要がある生徒が見えてきます」（宮崎校長）

「春休みの学習課題」を提出できるよう頑張る。続く「確認テスト」でその結果が表れる。そして教師は、重点的に指導が必要な生徒を早期に把握することが出来る。「春休みの学習課題」と「確認テスト」をセットで運用することで、同校の導入期の指導は着実に向上したと言えるだろう。塩田中学校のこうした取り組みを嬉野市全域で展開できないかどうか、嬉野市教育委員会では検討している。

図3　「春休みの学習課題」学習計画と生活の記録

平成22年　春休みの学習計画と生活の記録

小学校ご卒業おめでとうございます。（　　）小学校　6年　組　名前（　　）

今、春真っ盛りの日を迎え、新たな旅立ちの時を迎えている春先のみなさん。中学校入学を前に、たくさんの夢と希望に満ちあふれていることでしょう。また、少しの不安と緊張を感じているのではないでしょうか。

中学校では先輩方が、勉強や部活動、行事や友達とのふれあいを通して楽しい学校生活を送っています。

みなさんも中学校で楽しい毎日が過ごせるように、この春休みは中学生になるための「心と体の準備をする時間」と思い大切に過ごして欲しいと思います。規則正しい生活をのびのびと過ごしましょう。

★春休みの努力目標（これだけは絶対に守る、と言うことを一つずつ書こう）

☆	☆

★一日のスケジュール（一日の流れを自分で計画して、実践してみよう）

5　6　7　8　9　10　11　12　13　14　15　16　17　18　19　20　21　22　23　24時

★計画・記録表　（例を参考にして書こう。　◎…良くできた。○…できた。△…あまりできなかった。×…できなかった）

月日(曜)	自分の予定	早寝早起き	朝食	手伝い	歯磨き	勉強	今日の一行日記	明日の予(ポイント)
(例)	算数(9～11時)	○	◎	△	◎	○	少し疲れたけど、楽しかった。勉強も2時間した。	
3/20(金)								
3/21(土)								
3/22(日)								
3/23(月)								
3/24(火)								
3/25(水)								
3/26(木)								
3/27(金)								
3/28(土)								
3/29(日)								
3/30(月)								
3/31(火)								
4/1(水)								
4/2(木)								
4/3(金)								
4/4(土)								
4/5(日)								
4/6(月)								
4/7(火)								
4/8(水)								
4/9(水)	中学校入学式	私は1年（　）組です。（　　）先生です。						

★4月8日に、春休みの反省と中学校での意気込みを書こう！

★おうちの方からの一言

★4月10日(金)の朝、中学校の担任の先生に提出してください。

「早寝早起き」「朝食」「手伝い」「歯磨き」「勉強」が出来たかをチェックする欄を設け、生活習慣が乱れないように意識付ける。更に、中学校への意気込みを書く欄を設け、新生活への意欲を高めようとしている

嬉野市教育委員会の支援策

ボトムアップで始まった「春休みの学習課題」

塩田中学校が活用する「春休みの学習課題」は、嬉野市教育委員会（以下、市教委）の全市的な取り組みだ。市教委学校教育課の福田義紀課長によると、この取り組みの発端は、中学校現場独自の動きだったという。

「本市では10年度から小中連携教育事業の一環として、全市を3ブロックに分けて小・中学校の教職員合同の研修会を開いています。このうちの一つ、08年度から先行して始めていた嬉野中学校とその校区の小学校3校の研修会で、小学校卒業後の『学習の空白期

嬉野市教育委員会学校教育課課長
福田義紀 Fukuda Yoshinori
『学校を支える教育委員会でありたい』を本市教育委員会の第一コンセプトとして学校支援を進めています」

◎佐賀県嬉野市
嬉野町と塩田町が2006年に合併して誕生した佐賀県南西部の市。同県を代表する温泉地の一つ、嬉野温泉の温泉街のほかは、田園地帯が広がる。人口は約2万9000人。市立小学校は8校、市立中学校は4校。

間』に対する問題意識が持ち上がったのです」

話し合いの結果、嬉野中学校の校区の小学校の卒業生に春休みの課題を出すことになり、当時、嬉野中学校に勤務していた教師が率先して4教科分の問題を作成した。この教師は人事交流で小学校の教壇にも立った経験があり、小学校の学習内容にも精通していたからだ。中学校の観点から「少なくともこれくらいの内容を身に付けて入学してほしい」というレベルの問題案を作成し、校区の小学校教師と協議して完成させた。

「08年度は、嬉野中学校区独自の取り組みとして実施されましたが、せっかくの良い取り組みを一学区だけにとどめておくのはもったいない。全市で実施できないか検討が始まりました」（福田課長）

初年度の活動を踏まえ、各小・中学校の教務主任から成る「学力向上推進委員会」が問題を再検討。09年度用では、例えば算数の2けたと1けたの足し算など「簡単すぎる」と指摘された問題が削られた。また、新学習指導要領に対応するため、社会科で都道府県名と県庁所在地名を記入する問題や、子どもが全般的に苦手な分野を補強する問題を加えた。

「こうした作業を通して、中学校教師は小学校の現状を、小学校教師は中学校で求められる学力を、それぞれより深く知ることにもなりました。『中学入学時には最低限これだけは出来てほしい』という中学校教師の思いと、『これだけは出来るようにして卒業させたい』という小学校教師の思いをすり合わせる場にもなったと思います」（福田課長）

中学校からのプレゼントとして渡される「春休みの学習課題」

「春休みの学習課題」は全市で次のような流れで活用されている。まず、市教委が全児童分の冊子を印刷し、各小学校に配布。小学校の卒業式前に6年生の担任が児童に配り、中学校入学後に担任の先生に提出するように説明する。この時点では解答集は渡さない。表紙に「分からないときは教科書を見たり、家の人に聞いたりして、がんばってみましょう」と記されているように、調べたり相談したりしながらでも、自力で解かせるためだ。

ただ、普段から宿題などの課題をなかなか提出できない児童も中にはいる。そこで、配布の際、小学校の担任が、この課題に取り組むことで中学校の勉強にスムーズに入れることをしっかり伝える。

「『これは、小学校からのプレゼントとして中学校に持っていってください。中学校の先生が楽しみに待っているよ』といった具合に、中学校への橋渡しになる教材だと意識させるように教師がそれぞれ工夫しているようです」（福田課長）

冊子には、毎日の生活記録欄も設けられている。中学校では定期テスト前に学習と生活の記録を実施しているケースが多いが、その簡易版といったところだ。保護者のチェック欄も設け、子どもが毎日コツコツと取り組むためのフォローを保護者から引き出す仕組みになっている。

学校の支援に徹し「確認テスト」の全市実施を目指す

「本市の方針は、学校を支援すること。現場からの『こうしたい』という声をうまく引き出し、その取り組みを支援することを大事にしています。市教委から『こうしてほしい』と投げ掛けると、どうしても『やらされている』と感じ、先生方の意欲が下がってしまいます」（福田課長）

そうした市教委の方針からか、今回の取り組みについても現場からは「負担になる」という声は上がっていないという。ゼロから作問する必要はなく、課題の印刷も市教委が担っているということもあるが、何よりそれが、現場発の動きから出てきた取り組みだからだろう。

市教委では、先に紹介した塩田中学校が、「春休みの学習課題」を踏まえた「確認テスト」を独自に実施したことを受け、これを全市で実施できないか検討を始めている。現場発想の良い取り組みを、市教委が支援して他校にも波及させるというサイクルが、同市では回り始めている。